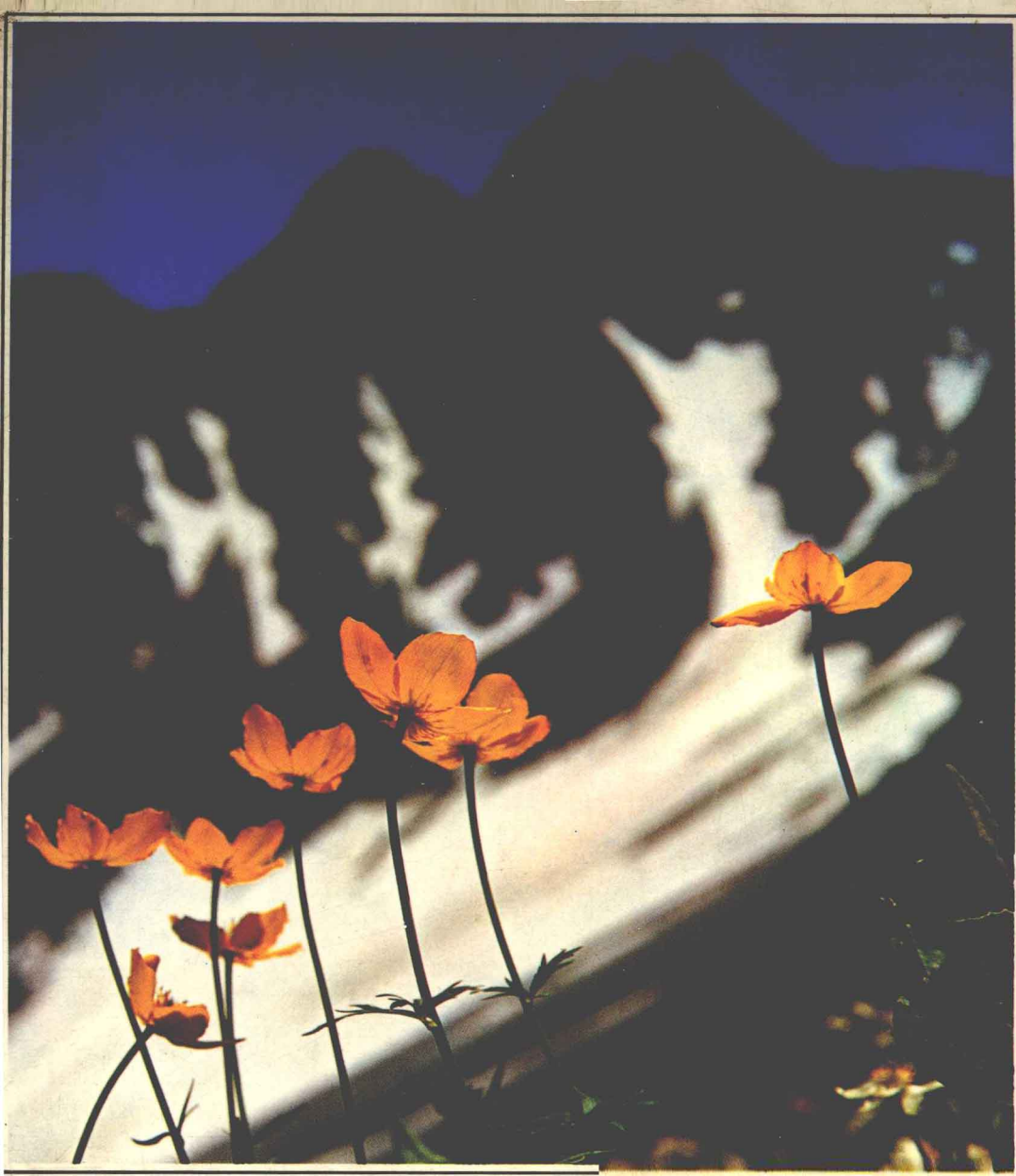


カラー版 自然の詩

花の信濃路

ふるさと歳時記



カラー版 自然の詩

花の信濃路

昭和五十七年九月二十日発行

発行人 石原明太郎

発行所 (株)国際情報社

発売 (有)光 房

〒150 東京都渋谷区東一―二八―六

電話〇三(四〇七)六一四六

振替東京 五―三六五四八

印刷 国光印刷(株)

定価 一六〇〇円

© KOKUSAI JOHO SHA 1982

カラー版 自然の詩

花の信濃路

ふるさと歳時記

国際情報社

花の信濃路 目次

中信に咲く

満喫した信濃の自然美……………阿木翁助 6

ケシヨウヤナギへ上高地 8

ミズバシヨウへ乗鞍高原 10

ワサビ田へ南安曇郡穂高町 11

ニリンソウへ上高地 12

フキノトウとシヨウジョウバカマへ乗鞍高原 13

トウゴクミツバツツジへ木曽郡大桑町・阿寺溪谷 14

サクラへ寝覚ノ床 15

シバザクラへ妻籠宿 16

ウメへ妻籠宿 17

ヤマブキへ木曽郡木曽福島町・堂ヶ沢 18

レンギョウへ木曽郡木曽福島町・地藏峠 19

ハクサンイチゲへ白馬岳 22

トウヤクリンドウへ大天井岳 24

ウルップソウへ白馬岳 25

シコタンソウへ北穂高岳 26

ミヤマクワガタへ白馬岳 27

ミヤマオダマキへ白馬岳 28

春 カタクリ、コミヤマカタバミ、オキナグサ、スイカズラ、クサボケ、サンシュユ 20

夏 アカツメクサ、ムラサキ、ツバメオモト、クコ、ノイバラ、カワラケツメイ 40

秋 クズ、センブリ、ヤマラッキョウ 48

ミヤマアズマギクへ八方尾根 29

コマクサへ燕岳 30

ミソガワソウへ南安曇郡安曇村・檜沢 31

ハクサンシヤジンへ白馬岳 32

シナノキンバイへ南安曇郡安曇村・瀬沢 33

シロウマオウギへ白馬岳 34

ハクサンフウロへ南安曇郡安曇村・瀬沢 35

フランスギクへ馬籠宿 36

エニシダとダイアンサスへ木曽郡上松町 37

カラシナへ上高地 38

オランダガラシへ南安曇郡穂高町 39

紅葉へ北安曇郡白馬村 42

カンボクの実へ乗鞍高原 44

ウラシマツツジへ大天井岳 45

キキョウへ青木湖 46

ムクゲへ妻籠宿 47

北・東信に咲く

私の青春 そばの花咲く高原……………島田謹介 50

レンゲツツジへ五味池高原 52

フジへ上田市前山寺三重塔 54

アンズへ更埴市あんの里 55

スモモへ上水内郡鬼無里村 56

モモへ佐久市浅間 57

ヒメオドリコソウへ飯山市郊外 58

ノザワナへ飯山市郊外 59

リンゴの花へ下高井郡北志賀山ノ内 60

レンゲソウへ小諸市郊外 61

ホウノキへ上田市安楽寺八角三重塔 62

ハルジオンへ上水内郡鬼無里村 63

カキツバタへ志賀高原 66

サワギキョウへ黒姫高原 68

クルマユリとヤマトリカブトへ白馬岳 69

タバコの花	上水内郡戸隠村	70	ハンゴンソウ	湯の丸高原	78
シヤクナゲ	小県郡真田町・角間溪谷	71	ソバ	上水内郡戸隠村	79
キバナコスモス	黒姫高原	72	ノハラアザミとアキノキリンソウ	湯の丸高原	80
ヤナギラン	志賀高原	73	マツムシソウ	佐久市浅間	81
カラマツの黄葉	高峰高原	76			

花の霧ヶ峰幻想……………立原えりか 84

コヒガンザクラへ上伊那郡高遠町郊外	86	キリガミネスミレへ霧ヶ峰高原	98
ナシ畑へ伊那市郊外	88	クガイソウへ鉢伏山	99
スイセンへ上伊那郡箕輪町	89	シモツケソウへ霧ヶ峰八島湿原	100
マルメロへ諏訪湖畔	90	千ダケサシへ霧ヶ峰高原	101
ノボリフジへ飯田市郊外	91	キオンへ霧ヶ峰高原	104
ヤマナシへ蓼科高原	92	コマユミの実へ和田峠	106
コブシへ虻川溪谷	93	紅葉へ飯田市郊外	107
ニッコウキスゲへ霧ヶ峰高原	96		
アマドコロ、フデリンドウ、モミジイチゴ、ホトケノザ、ノゲシ、ユキノシタ	94		
メハジキ、キンバイソウ、サギソウ、オカトラノオ、イブキトラノオ、ネムノキ	102		
オケラ、キンミズヒキ、センニンソウ	108		

『おらが春』と一茶の四季……………栗山理一 109

信濃路の風土と花	高橋秀男	116
信濃路の花と民俗	桜井満	122
高遠の花	飯沢匡	126
信濃山旅 忘れじの花	田中澄江	130
心に残る信濃の花旅	生方たつゑ	134
信濃路の花名所めぐり(植物園ガイド)	大貫茂	138
カラー写真索引地図		142



■ はじめに

●本書は信濃路の自然に咲く花を、それぞれ、「中信に咲く花」、「北・東信に咲く花」、「南信に咲く花」に分けて編成されています。

●本来長野県は北信、東信、中信、南信に分かれますが、本書では北信と東信を一緒にまとめ、北・東信とし、全体を三つの地域に分けてあります。中信は主に安曇、松本、木曽地方、北・東信は長野、上田、佐久地方、南信は諏訪、伊那、飯田地方です。

●カラー写真は、中信、北・東信、南信ともに、春、夏、秋の季節に分け、季節ごとに咲く花が一目でわかるように編集されています。

●花の開花時期と季節分けは、山岳の多い長野県地方の風土と気候を考慮し、一月～五月までをそれぞれ早春・陽春・晩春、六月～八月までを初夏・盛夏・晩夏、九月～十一月までを初秋・中秋・晩秋の季節に組み入れてあります。季節の区分けは撮影年月日を主体としていますが、雪におおわれる冬の季節はなるべくさけ、早春・晩秋の中に組み入れるようにつとめました。

●自然の中に息づく花を主体とし、自然の中にありのままに咲いている花の姿を強調してあります。また風土の特色を出すため、信濃路の風景をできるだけ取り入れ、各季節ごとには、図鑑風に花を見せる頁もあります。

●花にはわかりやすい植物解説と味わいのある秀句を付し、これらを合わせ読むことにより、花への愛着がより深まることでしよう。

●季節の美しい花々を謳いあげた本書は、ふるさとの花ごよみとして、また、信濃路を愛する人だけでなく、すべての花を愛する人々の友として、多くの方々に活用されることを願ってやみません。

カラー写真解説／大貫 茂

写真／フォトライブラリー・ひまわり サンエイ・
フォトライブラリー ネイチャー・フォトライブ
ラリー サンワード企画 カラーライブラリー・
フォトローカル 小松毅史

地図・カット／森 茂

中信に咲く

広がりを見せる

安曇野の原。明る

い陽ざしに草原の花

たちは眩く輝き、爽や

かなほほえみを見せなが

ら、繚乱の宴へといぎなう。

可憐な花々の息吹きは、峻

巖な山々に囲まれた木曽

路や、屹立する雪嶺の

北アルプスの山肌に

も花の香豊かに逞

しく咲き誇る。



キバナシャクナゲ＝木曾駒ヶ岳

満喫した信濃の自然美

阿木翁助

ここは「片栗」の原生花園だ。早春の香りが漂う落葉松林の中に、どこまでも涯なく続く紅紫の花群……

近ごろは山草栽培などが盛んで、中には天然記念物の高山植物を盗む人さえあるようだが、私は信州に生れて育ったおかげで、ちよつと足を運べば、あるがままの自然を存分楽しめる幸せを持っていた。

中学時代には、植物好きの上級生に連れられて、ひまがあると方々の野山を歩きまわったものだ。

安曇平では、五月の中旬に咲く、「水芭蕉」の事を「後家花」と呼んで雑草あつかいだった。

尾瀬などでは名草とされているこの花も、安曇のお百姓さんにかつては、

「何しろしつこいもんでな、いくらむしつても、水口を塞いじやつてやりきれねえり！」となってしまう。

佐野坂を越すと別の小天地が開かれる。ここは「片栗」の原生花園だ。早春の香りが漂う落葉松林の中に、どこまでも涯なく続く紅紫の花群、しかもその処々に、「菊咲きの一輪」や「一人静」が忍びやかに顔を見せて、その中を通る道は、まさに花咲

片栗や自づとひらく空の青

加藤知世子

かたくりの咲きひろぐるに霧あはし

新井英子

片栗の花にかしぎて墓亡ぶ

岸風三樓



き乱れたプロムナードである。

この道を行って一山越えと、裾花川溪谷になる。ここは秋の別天地だ。謡曲『紅葉狩』の舞台は戸隠となっているが、この地こそ作者が発想を得た所だという話を聞いた。

一夜の雨ですっかり紅葉の色を増した山中に、美々しい幕を張りめぐらせて上臈たちの酒宴。鹿を追って通りかかった余吾將軍平維茂は、たちまち彼女らのとりことなる。

やがて酔いを発した維茂が美女の膝枕で……と、美女は忽然と鬼の姿に……。そんな物語が生れる素地が、確かに此処の紅葉にはある。

だが、中信の紅葉の景観は、島々谷から徳本峠の道が圧巻かも知れない。

左右の林の紅葉は言わずもがな、その道には朽ちた落葉が散り敷き、その上の処々に「山葡萄」の新鮮な落葉が重なった大模様は、真実華麗な絨毯である。

木曾といえば、檜林で見た美しい花のことも書いて置かなければならない。それは小川溪谷を遡る赤沢備林の「紅万作」の花だ。

樹齢三百年の天然檜がつらなる木下闇の中に、黒々と太い樹幹を彩った濃艶なくれないの美しさ。こんな風に書いたところで、土地の古老が言った言葉に会々と沈黙せざるを得ない。「ことども話にも絵にも書けないりー！」

(劇作家)

雪解の山に詩う

ある時は柳絮柳絮に濁る山おろし

前田普羅

檜見ゆる檜見河原に柳絮とぶ

福田蓼汀

なかぞらにほぐれわかれし柳絮かな

軽部烏頭子

ケシヨウヤナギ上高地

ひと口にヤナギというがその仲間は多く、わが国には二〇種をこえるヤナギが山野に自生している。そのほとんどは原野や水辺に生えているが、タカネイワヤナギやミヤマヤナギのように自生地が高山帯か亜高山帯となっているものもある。ケシヨウヤナギはそうした高山性のヤナギに比べると少し低い亜高山帯に多く見られ、幼い木は枝といわず、葉といわず白蠟質の分泌物を付着させて白く、美しく見えるのである。ケシヨウヤナギはそうして名づけられたものである。

上高地の梓川流域にはこのケシヨウヤナギが大群生を見せ、ウエストン祭の催される六月初めごろ、若葉と同時にさびしげな花房を群がり咲かせる。







峠にはまだ雪消えず水芭蕉

瀧井孝作

沢水は春も澄みつつ山葵生ふ
山葵田に引くアルプスの水澄めり

松本たかし
立木大泉

ミズバシヨウ 乗鞍高原

信州はさすがに山国だけあってミズバシヨウの名所が数多くある。乗鞍高原、拇池高原、奥裾花自然園、戸隠森林植物園、長原湿原、あわら湿原など割合に知られている場所だけでもらくに二十カ所をこえる。

乗鞍高原のミズバシヨウ群生地は一の瀬牧場内を流れる一の瀬川上流のほとりに広がっている。鬼無里村の奥裾花自然園ほど広い群生ではないが、背後にはまだ冬山そのものといってよいほどの残雪をやとす秀麗な乗鞍岳がそびえ立ち、景観の美しさでは抜群だ。花の盛りは五月半ばより月末ころ。

ワサビ田 南安曇郡穂高町

ワサビは山国の特産植物で、清冽な水がほとばしり流れる谷川の浅瀬に生えるあぶらな科の多年草である。根はもちろん、茎、葉にいたるまで辛味があるために古くから香辛野菜として栽培されている植物だ。

静岡県北部や伊豆半島の山間部でも栽培されているが本場はもちろん信州。県内各地で栽培されており、なかでも穂高町御法田のワサビ田は全国一のスケールの大きさを誇っている。純白の十字花が田んぼ一面を埋めつくすのは雪どけまでもない四月半ばころ。





森の奥に日ざしうつらふ二輪草

奥田とみ子

ニリンソウⅡ上高地
きんぽうげ科の植物には毒のあるものが多いがこのニリンソウは無毒で山菜として貴重な存在。近縁種には花の咲きかたから名づけられたイチリンソウ、サンリンソウがある。上高地や信州全域に見られる。花の盛りは五月。

雪国の春こそきつれ路の臺

西島麦南

消え消えの色に咲き出ぬ処女袴

石塚友二

フキノトウと

シヨウジョウバカマⅡ乗鞍高原

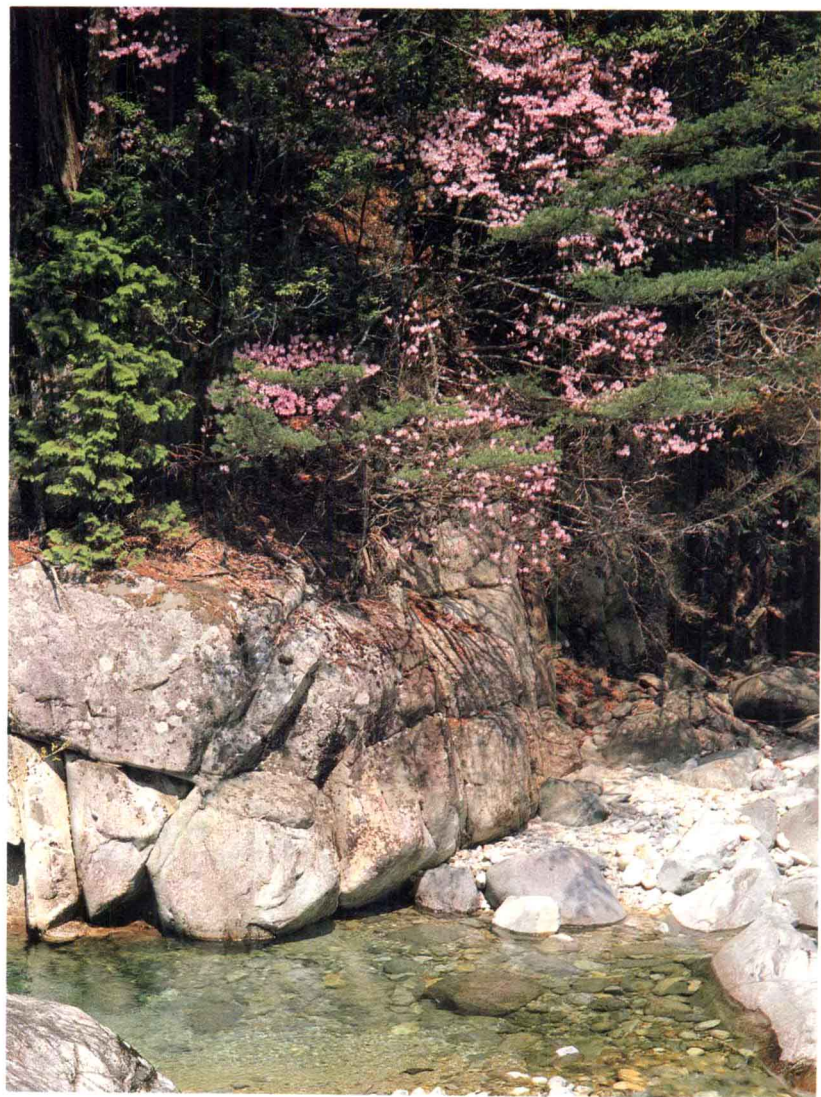
雪が溶けたばかりの黒土をもたげて真っ先に地上に姿を現わすのがフキノトウと、シヨウジョウバカマである。「春の女神」の到来を告げる植物といつてよい。花の盛りは四月～五月。



花をしぞ思ふほのぼの赤つつじ
丘渡りして日の強き躑躅かな

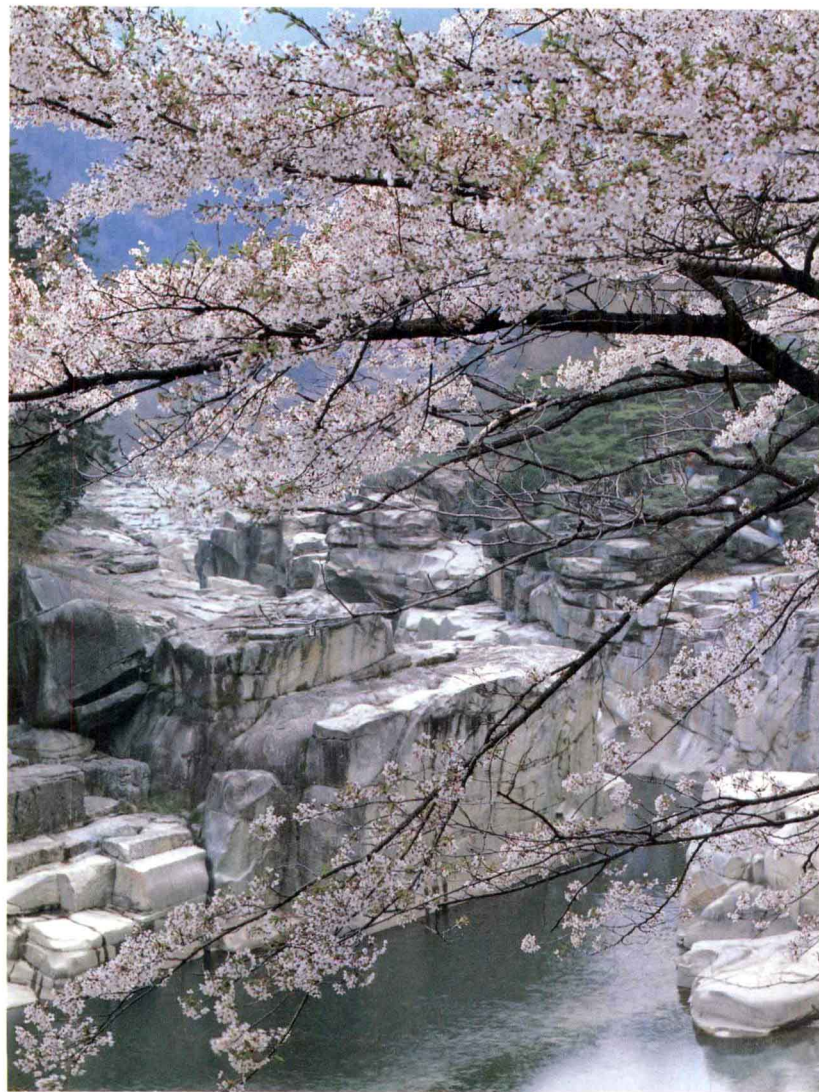
守武

松根東洋城



トウゴクミツバツツジ 阿寺溪谷(木曾郡)

ようやく萌え出した新緑の木々のなかにひとときわ目立つ紅紫色の花を咲かせるミツバツツジはじつに印象的な眺め。もちろん、葉が三枚ずつつくことからつけられた名だが、関東、甲信、東海地方の山地にはトウゴクミツバツツジとミツバツツジの二種類が自生している。トウゴクミツバツツジは雄しべが一〇本で葉に毛を密生させ、ミツバツツジは雄しべが五本で葉に毛がないことが大きな相違点。花の盛りは四月末〜五月半ばころ。



肌のよき石にねむらん花の山
木の下に襟こそばゆき桜かな

路通
嵐雪

サクラ川 寢覚ノ床（木曾郡上松町）

日本の国花となつてゐるサクラだけに信濃路にもその名所は数多くある。高遠城址公園、懷古園、松本市城山公園、長野市城山公園、中央アルプス県立公園……といったぐあいで数十本程度の名所まで挙げれば少なくとも五十カ所を超える。

木曾路の観光名所として知られる寢覚ノ床には数十本しかサクラはないが、乳白色の花崗岩の間を縫つて流れ下る天下の奇勝を背景とするだけに美しさは抜群。花の盛りは四月二十日前後。